

水 産 資 源 調 査 (ソ ウ ハ チ)

道 根 淳

ソウハチは日本海南西海域を漁場とする沖合底曳網漁業および小型底曳網漁業（かけまわし）において重要漁獲対象魚種である。しかし、最近のソウハチの漁獲量は、沖合・小型底曳網漁業ともに減少傾向にある。

そこで本研究では、沖合底曳網漁業におけるソウハチの漁獲動向について調査を行った。なお、この調査はソウハチの資源動態の把握を目的とし、国の委託を受けて実施した。

資 料 と 方 法

浜田港を基地とする沖合底曳網漁業（以下、沖底とする）を対象に調査を実施した。

用いた資料は、浜田市漁協の1981年から1990年までの漁獲統計資料である。なお、ここでは漁期年を用いた。1漁期は、その年の8月中旬から翌年5月までである。

資源量の指数としてC P U E（1統当たりの1漁期漁獲量）を採用し、その経年変動を検討した。また月1～2回の割合で市場調査を実施した。市場調査は、ソウハチの水揚げ量の多い船を1～2隻抽出し、全出荷銘柄について30～50尾ずつ体長（全長）の測定を行い、水揚げ箱数の計数を行った。さらに、出荷銘柄別の体長測定資料と出荷箱数から、漁獲物の体長組成の推定を行った。

表1 調 査 日

調査実施日	標 本 船
1990. 9. 19	第25, 26 明 神 丸
1990. 10. 23	第25, 26 栄 行 丸
1990. 11. 20	第15, 16 豊 栄 丸
1990. 12. 10	第15, 16 豊 栄 丸
1991. 1. 30	第13, 15 出 雲 丸
1991. 3. 7	第3, 5 金 光 丸

結 果

図1に浜田港を基地とする沖底によるソウハチの漁獲量およびC P U Eの経年変動を示した。漁獲量は1985年までは600トン前後で推移していた。操業統数は1981年には15ヶ統あったが、1985

年には11ヶ統に減少した。1986年に浜田市漁協(11ヶ統)と出雲船魚市場(11ヶ統)が合併し、漁獲量は1,000トンを越えた。その後1988年までは、1,000トン前後で推移している。1989年には操業統数が21ヶ統から19ヶ統に減ったにも関わらず、増加傾向を示し、1990年には最近10年間では最高の1,612トンの漁獲があった。

CPUEの経年変動は漁獲量のそれとはほぼ同じであり、1982年から1988年までは40トン台で安定していた。漁獲量が増加を始めた1989年以降は増加傾向を示し、1989年には66.0トン(前年比50%増)、1990年には84.9トン(前年比28%増)と急増した。

図2に漁獲物の体長組成の季節変化を示した。耳石による年齢推定の結果から沖底では1, 2歳魚を中心に漁獲しているものと考えられる。

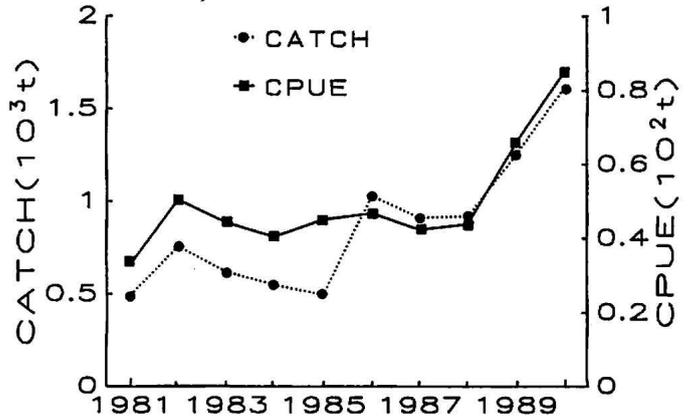


図1 浜田港を基地とする沖底によるソウハチの漁獲量とCPUEの経年変動

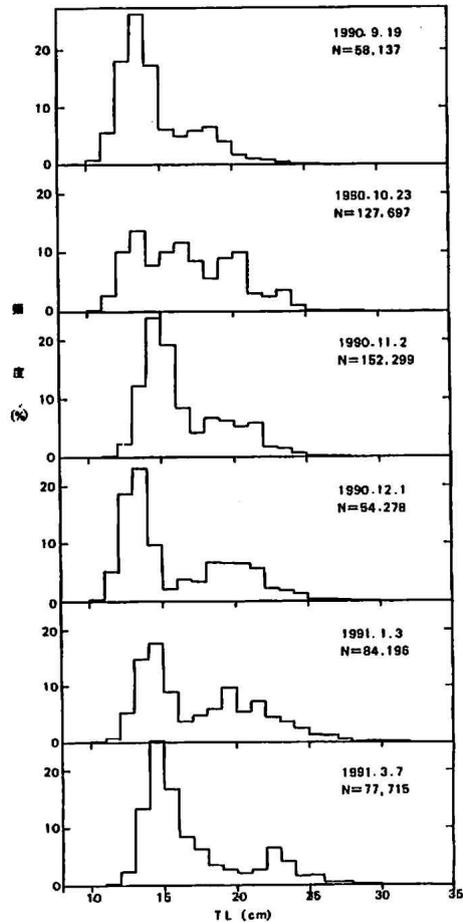


図2 沖底で漁獲されたソウハチの体長組成の季節変化